

令和2年度 学校自己評価

中津市立三郷小学校

評価判断基準 A …達成率90～100% B …達成率70～ 89% C …達成率60～ 69% D …達成率60%未満
--

1 学校の教育目標: 身につけた「力」を活かし「深く考え」意欲を高めて「挑戦」する 三郷っ子

2 育成を目指す資質・能力: 言語能力 ・ 考えを形成し深める力

チームやまくにめざす児童・生徒像

〇〇〇〇
 地心自基礎
 域身他を基
 にのを基
 誇健尊本
 り康重を
 をとし大
 も体、切
 つ力思に
 児のいし
 童や、活
 ・上りと
 徒努感力
 め謝を身
 るの気
 児童持っ
 ・ちけを
 徒も主
 つ体的
 児童・生
 徒自己
 表現で
 できる
 児童・
 生徒

【至きて働く知識・技能の習得】

【采知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成】

【学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養】

【働き方改革の推進】

計画 (12月 16日)					確認・検証・改善 (2月 24日)		自己評価 (2月 24日)						
重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	担当	達成指標・取組指標の妥当性を検証	評価	成果と課題						
言語能力の習得	○児童アンケート「キーワードをつかってふりかえりができた」(書けるか言えるかどちらかできればよい)の項目で、◎○と回答する児童の割合が80%以上 ○児童アンケート「スキルタイムや授業を通して‘言葉の力’ ①語彙力 ②話す力 ③聞く力 ④書く力 ⑤読む力 がついてきた」◎○と回答する児童の割合80%以上 ※強化学期 2学期…①②④ 3学期…①⑤④ ○国語の単元テストにおける観点別の項目で、80点以上の児童の割合80%以上	学校 ○単元テストを意識した授業を展開し、毎時間のふり返りやキーワードによる基礎学力の定着 ○毎回単元テストを観点別に集計し、成果と課題を把握する。	粉	○国語・算数・理科の授業において、習得すべきキーワードを板書に位置づけるとともに、キーワードを使ってまとめや振り返りをする。 ○月・火・木・金のスキルタイム(帯の時間)で、曜日と内容を固定した取組を行う。 月→語彙 火→話す聞くスキル 木→短文作成 金→読解プリント ○家庭学習チェックシートの取組に参加し、感想を書く。 ○生活チェック週間は、特に「親子でメディアコントロール」に協力する。(2学期・3学期に1回ずつ) ○登下校時に子どもを見かけたら、あいさつや言葉かけをする。 ○地域での子どもの様子について、学校に伝える。(学期に1回アンケート)	粉 土谷 足立 各担当	・達成指標…妥当 ・取組指標…妥当 ・2月のふりかえりチェックシートで「キーワードをつかってふりかえりができた」という児童が87%であった。 ・授業やスキルタイムを通して、言葉の力がついてきたという児童が88%であった。 ・ほとんどの家庭がチェックシートの取組に参加し、感想を書くなど、子どもの学習に対して関心は高い。	A	○すべての項目で達成できたので、100%を目指して定着させていく。 ○単元テスト等においても、子どもが「できた」と実感できるように、できなかった理由を分析して改善していく。					
		学校 ○「言葉の力」を習得させる取組	赤尾 田本 大森 木下		・達成指標…妥当 ・取組指標…妥当 ・2月ふりかえりチェックシートの結果を見ると、ツールを使ってペア・グループ活動することで自分の考えの伝えやすさを実感することができた。 ・2月セルフチェックシートの結果を見ると、毎日一回以上授業で取り組むことができていた。児童と職員の意識向上の現れだと考える。				A	○低学年では、児童同士、ペアやグループの中で説明の仕方や、それぞれの意見の相違点を考えながら、全体発表につなげる意識を養う必要がある。 ○高学年では、情報の整理や学習のまとめを、シンキングツールで表す授業を心がけると、「考える技法」を位置付けた授業となり、さらに主体的な学習につながる。そのためには、まずは授業者側から。			
		家庭 ○家庭学習に集中できる家庭環境づくり ○子どもの生活習慣を見直す実践	各担当								・達成指標…妥当 ・取組指標…妥当 ○共通アンケートより、主に生活科・総合的な学習の時間にゲストティーチャーを活用した授業を学期1回以上仕組む。	A	○仕組まれた活動に意欲的に取り組み、自分たちの住む「山国」との関係を大切にしようとする心情は育ってきた。今後は、自分たちの生活をふり返ることで、それぞれの学級や学校の課題を自分たちで見つけ、意欲的に関わっていくことが課題である。 ○児童集会等では、ほとんどの児童が意欲的に感想発表しようとするようになった。高学年(4～6年)は、iPadを使っての発表も定着した。今後は、身につけた言語能力を活かして考えを深めた発表内容を期待したい。そのため、「発表についての振り返りの場」の取り組み方を具体的にしていこうことが課題である。
		地域 ○「見守り隊」を中心としたあいさつ・声かけ運動の推進	各担当										
学校 ○友だちや、社会との関係を大切にしている心育成と集団づくりの取組 ○身につけた言語能力を活かして考えを深め、進んで発表する取組	森元 宮地 東 各担当	○1箇月の時間外在校等時間を40時間以内にする。	A	成果 会議の精選が進んでいる。 個人の時間外勤務時間が減少傾向にある。 持ち帰り業務が減ってきた。 課題 個人が時間外勤務記録表を定期的に確認し改善を進めることが求められる。									
家庭 ○家庭内で「三郷っ子スピリッツ(あいさつ・返事・言葉づかい・整理整頓・時間)」の励行	各担当												
地域 ○主に生活科・総合的な学習の時間で、GT(すくすくプロジェクト、森林体験学習)を活用した場面設定	各担当												
学校 ○計画的・効率的に会議を運営し、個別業務に充てる時間を確保するとともに、各担当の業務内容を精選する。	宮地 東 教頭												
家庭 ○時間外のPTAや地域協育等に関わる会議等の実施について、内容を精選し、妥当な終了時間を設定する。	○担当者・司会者は会の進行管理と効率的な運営を行う。 ○参加者は積極的に意見を出し、効率的な会の運営に協力する。	・達成指標…妥当 ・取組指標…妥当 教職員の月平均時間外在校時間 月の時間外在校等時間が40時間以上 12月…16.48h (11月 21.33h) 12月…0名 (11月 2名) 1月…15.09h 1月…0名 時間外在校時間が減少傾向が継続し、40時間以上の教職員が0名になった。 持ち帰りの業務が多い(10時間以上)教職員が1名のみ。	成果 会議の精選が進んでいる。 個人の時間外勤務時間が減少傾向にある。 持ち帰り業務が減ってきた。 課題 個人が時間外勤務記録表を定期的に確認し改善を進めることが求められる。										